

沖縄県における平成 23 年の毒蛇咬症

沖縄県衛生環境研究所

衛生科学班 真保栄陽子・松田聖子

I はじめに

沖縄県における平成 23 年（2011 年）の毒蛇咬症患者はハブ咬症 62 件、ヒメハブ咬症 5 件、サキシマハブ咬症 18 件、タイワンハブ咬症 3 件の計 88 件であった。これは昨年を少し上回ったものの、過去 10 年間で 3 番目に少ない被害件数となった。

今年はガラスヒバアやタイコブラ等のハブ属以外の毒蛇による咬症事故は確認されなかった（表-1, 2, 図-1）。ハブ咬症による死亡者の報告もなかった。

最近 10 年間の傾向をみると、ハブ単独では 60 件前後とほぼ横ばいとなっている。サキシマハブ咬症は 20~30 件前後推移し、ほとんど変わっていない。ヒメハブ咬症も 10 件前後を推移している。タイワンハブは 05, 06, 08, 09, 10, 11 年に咬症被害が報告されている。ハブ類四種の合計でも 100 件前後とほぼ横ばいの状況となっており、80 件を超えなかったのは平成 16 年と平成 22 年のみである。

II 調査方法

沖縄県内で発生したハブ咬症による患者は治療を受けた病院より所管の保健所を通じて、毎月

沖縄県薬務疾病対策課へ「ハブ咬症患者取扱報告」として報告される。さらに、診療にあたった病院が「ハブ咬症患者調査票」（図-11）に基づき、受傷に関する詳細を患者から聞き取り、保健所を通じて衛生環境研究所に郵送する。ハブ咬症患者調査票には記入漏れがある場合が多く、それは直接咬症患者本人や病院に問い合わせて内容を補完した。しかし連絡の取れない患者もあり、充分とはいえない。

なお、被咬者が毒蛇の種類を確認していない場合には、八重山地域（石垣市、竹富町）では実害のある毒蛇はサキシマハブだけなので、サキシマハブとして集計した。一方沖縄諸島ではハブもしくはヒメハブの可能性が最も高く、また糸満ではサキシマハブ、名護市周辺や恩納村山田周辺ではタイワンハブの可能性も否定できない。だが、このようなヘビの種類が特定できない事例は、最も可能性の高いハブ咬症として集計した。

調査にあたって各抗毒素常備施設の方々、ならびに各保健所職員には調査票の記入・報告等大変お世話になりました。厚くお礼を申し上げます。

表-1 最近10年間のハブ類咬症発生状況

年	ハブ		サキシマハブ		ヒメハブ 件数	タイワンハブ 件数	計	
	件数	死 受傷率	件数	死 受傷率			件数	死
02	61	0.050	32	0.612	9		102	
03	63	0.051	23	0.418	7		93	
04	43	0.035	22	0.370	3		68	
05	67	0.054	26	0.486	13	2	108	
06	62	0.049	30	0.540	10	2	104	
07	61	0.048	27	0.450	8		96	
08	65	0.051	21	0.410	8	1	95	
09	55	0.043	33	0.550	7	1	96	
10	48	0.037	21	0.412	9	1	79	
11	62	0.047	18	0.334	5	3	88	
計	587	0.047	253	0.458	79	10	929	

受傷率：人口1000人あたり受傷件数

*八重山諸島における咬症件数/八重山諸島人口×1000

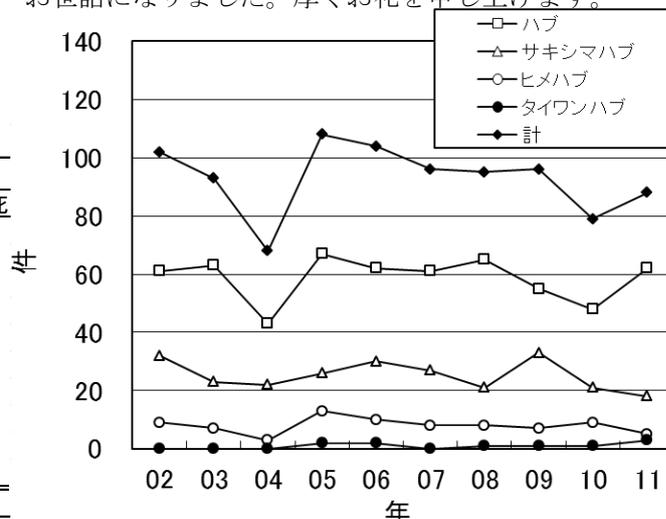


図-1 最近10年間のハブ類咬症発生状況

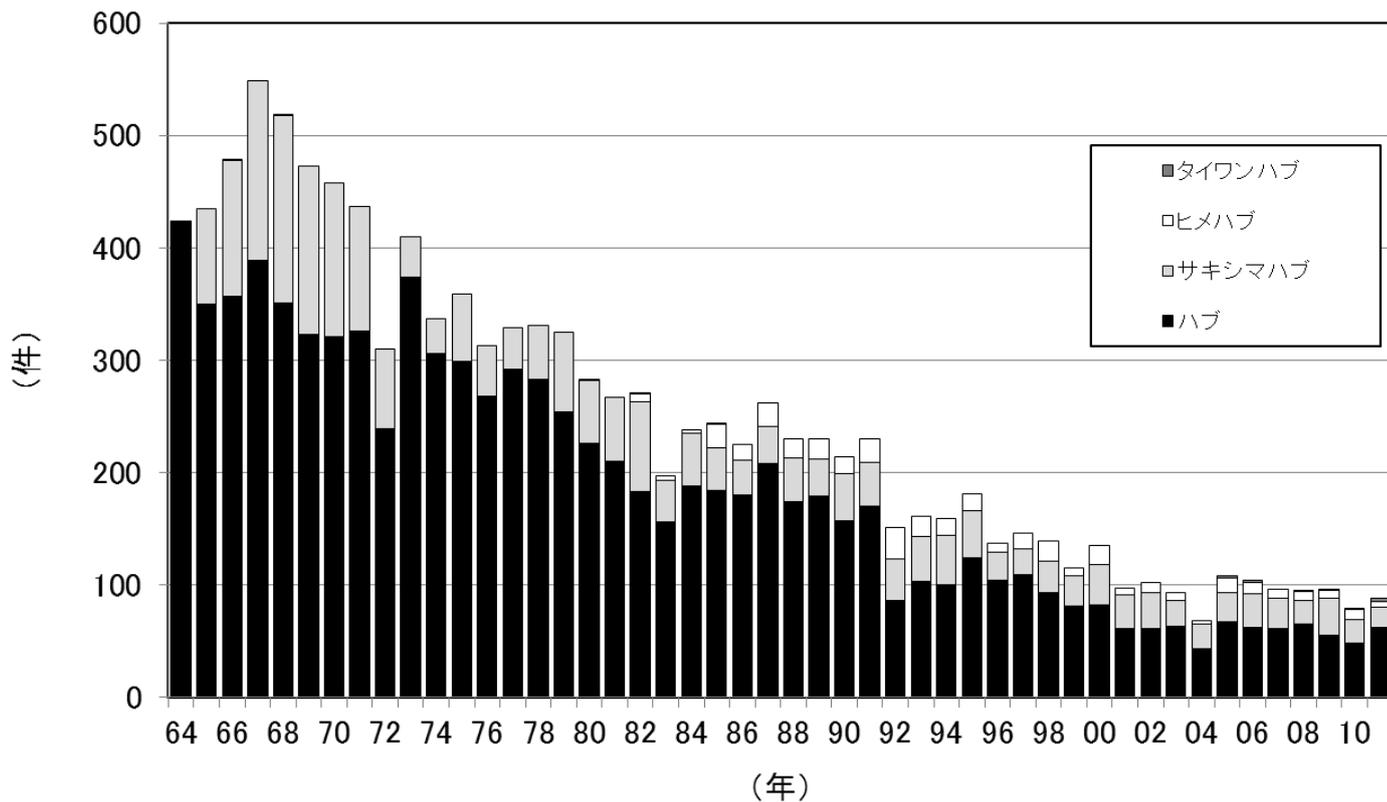


図-2 沖縄県のハブ類咬症の推移

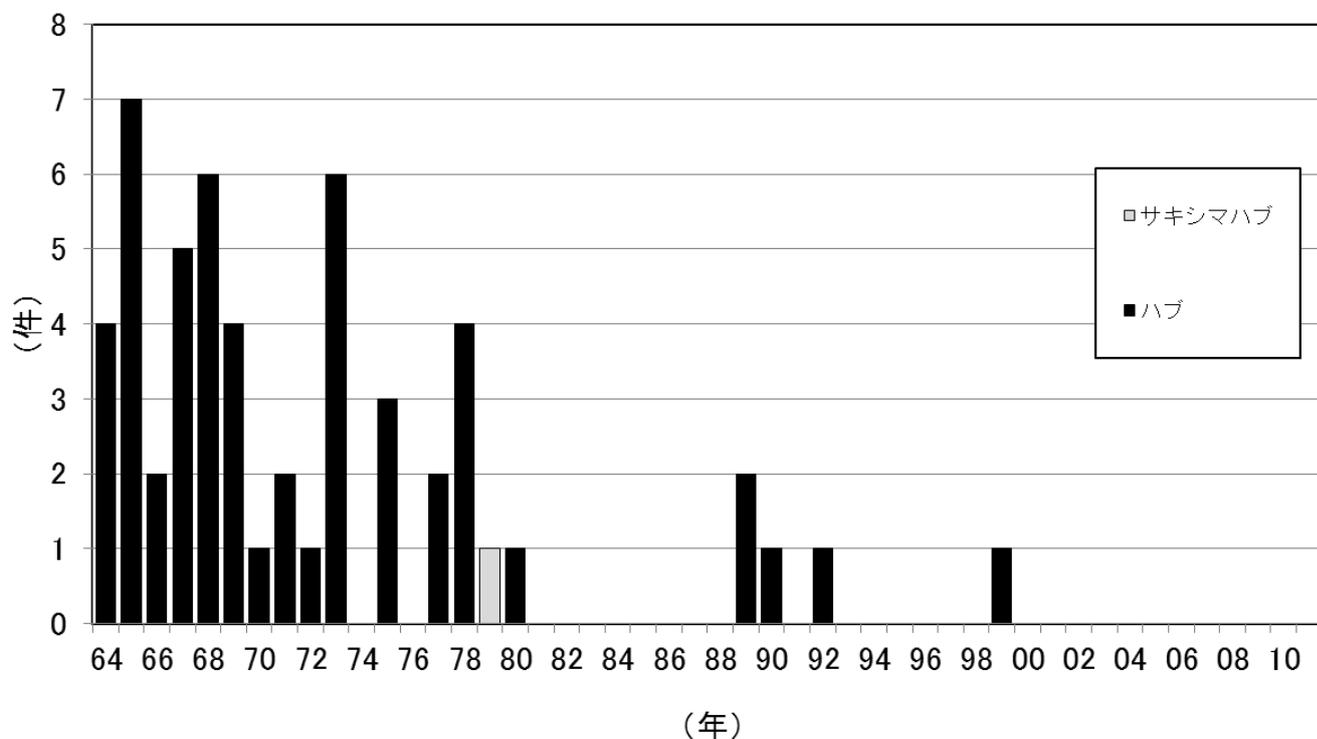


図-3 ハブ類咬症死亡件数の経年

表-2 沖縄県の毒蛇咬症の推移

種 年	ハブ 死亡 件数	サシマ 死亡 ハブ 件数	ヒメ ハブ	タイワン ハブ	ウミヘビ	コブラ		
64	424	4						
65	350	7	85					
66	357	2	121	1				
67	389	5	160					
68	351	6	167	1				
69	323	4	150					
70	321	1	137					
71	326	2	111					
72	239	1	71					
73	374	6	36					
74	306		31					
75	299	3	60					
76	268		45					
77	292	2	37					
78	283	4	48			1		
79	254		71	1				
80	226	1	56	1		1		
81	210		57					
82	183		80	7	1			
83	156		37	4				
84	188		47	3				
85	184		38	21	1			
86	180		31	14				
87	208		33	21				
88	174		39	17				
89	179	2	33	18		1		
90	157	1	42	15		2		
91	170		39	21				
92	86	1	37	28		1		
93	103		40	18				
94	100		44	15				
95	124		42	15				
96	104		25	8				
97	109		23	14				
98	93		28	18				
99	81	1	27	7				
00	82		36	17				
01	61		30	6				
02	61		32	9				
03	63		23	7				
04	43		22	3				
05	67		26	13	2			
06	62		30	10	2	2		
07	61		27	8				
08	65		21	8	1	1		
09	55		33	7	1			
10	48		21	9	1			
11	62		18	5	3			
計	8901	53	2447	1	369	12	7	2

表-3 最近10年間の市町村別毒ヘビ咬症件数

1. ハブ咬症

年	02	03	04	05	06	07	08	09	10	11	計
国頭村		2	1		6	2	1	5	4	3	24
大宜味村	1	1	1		1		3	1		1	9
東村		1	1	1		1			1	1	6
今帰仁村	2	1		2	1	1	1	2		1	11
本部町	3	2		1	5		2		1	2	16
名護市	1	1	2	4		2	2	1	3	4	20
伊江村		1					2		2	1	6
伊平屋村							2			1	3
宜野座村	1		1	1	1	1	2	1			8
恩納村				1		1			1		3
金武町	3		1	1	1	1	2	2			11
石川市※		1	1								
具志川市※	1	4	2								
与那城町※	2	3	4								
勝連町※	1	3	1	12	6	7	11	4	8	9	80
読谷村	1	4	3	5	2	3		2	2	3	25
嘉手納町						1					1
北谷町		1			1	2	1		1		6
沖縄市	2	2	1	4	3	3	1	6			22
北中城村	1	2		1			1		1		6
宜野湾市		1	1	2	2	2		1	1	3	13
中城村	1			1		1	4			5	12
西原町	2		1		1	2	3	2		1	12
浦添市	1			1	3	1			1		7
豊見城市		1		1		2				2	6
糸満市	6	8	7	6	2	2	7	8	9	7	62
東風平町★	4	4	4	1							
具志頭村★	2	4	2	3	9	8	1	7	2	3	54
玉城村☆	5	3	2	3							
知念村☆	2		1	2							
佐敷町☆	1	2		2							
大里村☆	2	1	4	2	8	8	4	8	4	2	66
南風原町	6	2		2	2	2	2	1	1	4	22
与那原町				1							1
渡嘉敷村					1					1	2
久米島町	5	5	2	6	3	3	7	2	4	5	42
渡名喜村											0
那覇市	5	2		1	4	5	4	2	1	2	26
不明		1					2		1	1	5
計	61	63	43	67	62	61	65	55	48	62	587

2. ヒメハブ咬症

年	02	03	04	05	06	07	08	09	10	11	計
沖縄県	9	7	3	13	10	8	8	7	9	5	79

3. サキシマハブ咬症

年	02	03	04	05	06	07	08	09	10	11	計
石垣市	23	13	16	22	20	19	16	21	17	11	178
竹富町	6	7	2	2	7	4	5	7	4	6	50
沖縄本島	3	3	4	2	3	4	0	5	0	1	25
計	32	23	22	26	30	27	21	33	21	18	253

4. タイワンハブ咬症

年	02	03	04	05	06	07	08	09	10	11	計
名護市				2	2			1	1	2	8
今帰仁村							1			1	2
計				2	2		1	1	1	3	10

5. ウミヘビ咬症

年	02	03	04	05	06	07	08	09	10	11	計
不明					2		1				3

★東風平町・具志頭村は2006年1月に合併して八重瀬町となったため
2006年以降のデータはまとめている

☆玉城村・知念村・佐敷町・大里村は2006年1月に合併して南城市と
なったため、2006年以降のデータはまとめている

※石川市・具志川市・与那城町・勝連町は2005年3月に合併して
うるま市となったため、2005年以降のデータはまとめている

III 調査結果

1. ハブ咬症

平成23年のハブ咬症件数は昨年より14件増加の62件だった(表-1)。市町村別に見ると、うるま市の9件が最も多く、次いで糸満市の7件、中城村・久米島町の各5件、名護市・南風原町の各4件、国頭村・読谷村・宜野湾市・八重瀬町の各3件、本部町・豊見城市・南城市・那覇市の各2件、大宜味村・東村・今帰仁村・伊江村・伊平屋村・西原町・渡嘉敷村の各1件でハブ咬症患者が発生した。また、中部の病院を受診していることから中部での受傷と思われるが市町村不明となっている事例が1件ある。なお、宜野座村・恩納村・金武町・嘉手納町・北谷町・沖縄市・北中城村・浦添市・与那原町・渡名喜村の10自治体でハブ咬症が0であった(表-4、図-4)。

市町村合併で単純な比較はできないが、最近10年間の累計では糸満市や南城市、うるま市を中心とする地域で多く咬症患者が発生している。

2. ヒメハブ咬症

ヒメハブ咬症は金武町・うるま市で各2件、本部町で1件の計5件であった。ただし、上記のハブ咬症件数の中には咬んだへびの種類を確認できていない場合が過半数を占めている。その中にはヒメハブ咬症も含まれていると予想されるので、ヒメハブ咬症の実数はもう少し多く、その分ハブ咬症が少ないと考えられる。

なお、ヒメハブは毒牙が短く、毒量も少ないので、重症になることが少ない。ちなみに、これまでヒメハブ咬傷者の死亡記録はない。

3. サキシマハブ咬症

サキシマハブ咬症は、糸満市1件、石垣市11件、竹富町6件の計18件だった。前年より3件減少した。糸満市のハブ類咬症被害の件数にほとんど減少が見られないのは、サキシマハブの影響も考えられ、被害拡大が懸念される。

サキシマハブもハブより毒が弱く、治療に際し

て血清を使わない事が多い。平成23年に血清を使用した患者は0名だった。

4. タイワンハブ咬症

タイワンハブによる咬症は名護市で2件、今帰仁村で1件の計3件だった。

聞き取り調査によるとタイワンハブの捕殺・目撃例も多いことから、今後も注意が必要である。

表-4 2011年受傷市町村別月別毒ヘビ咬症件数

ハブ咬症													
月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	計
国頭村					1			1		1			3
大宜味村					1								1
東村						1							1
今帰仁村					1								1
本部町				1						1			2
名護市					2						1	1	4
伊江村										1			1
伊平屋村		1											1
宜野座村													0
恩納村													0
金武町													0
うるま市				1			1		3	2	1	1	9
読谷村					1				1	1			3
嘉手納町													0
北谷町													0
沖縄市													0
北中城村													0
宜野湾市		1								1	1		3
中城村						1				3	1		5
西原町								1					1
浦添市													0
豊見城市						1		1					2
糸満市				1	1	1	1			2	1		7
八重瀬町		1			1						1		3
南城市							1		1				2
南風原町	1		1							2			4
与那原町													0
渡嘉敷村							1						1
久米島町			1					1			3		5
渡名喜村													0
那覇市							1				1		2
不明										1			1
計	1	2	3	3	8	4	5	3	6	15	10	2	62

ヒメハブ咬症													
月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	計
本部町							1						1
金武町								1		1			2
うるま市							1			1			2
計	0	0	0	0	0	0	2	1	0	2	0	0	5

サキシマハブ咬症													
月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	計
糸満市											1		1
石垣市				2		1	1		2	1		2	11
竹富町	1						2		1	1	1		6
計	1	0	2	0	1	1	2	2	2	1	4	2	18

台湾ハブ咬症													
月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	計
名護市								1		1			2
今帰仁村											1		1
計	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1	1	0	3

表-5 2011年 市町村別ハブ類受傷件数と人口千人当り受傷率

順位	受傷市町村	ハブ	ヒメ	サマ	タイツ	計	順位	受傷市町村	受傷件数	受傷率	人口
		ハブ	ハブ	ハブ							
1	うるま市	9	2			11	1	竹富町	6	1.5645	3,835
1	石垣市				11	11	2	渡嘉敷村	1	1.3055	766
3	糸満市	7			1	8	3	伊平屋村	1	0.7463	1,340
4	名護市	4				2	4	久米島町	5	0.5922	8,443
4	竹富町				6	6	5	国頭村	3	0.5864	5,116
6	中城村	5				5	6	東村	1	0.5473	1,827
6	久米島町	5				5	7	大宜味村	1	0.3076	3,251
8	南風原町	4				4	8	中城村	5	0.2761	18,110
9	国頭村	3				3	9	石垣市	11	0.2340	47,006
9	本部町	2	1			3	10	本部町	3	0.2177	13,782
9	読谷村	3				3	11	今帰仁村	2	0.2171	9,211
9	宜野湾市	3				3	12	伊江村	1	0.2154	4,643
9	八重瀬町	3				3	13	金武町	2	0.1812	11,037
14	今帰仁村	1			1	2	14	糸満市	8	0.1391	57,507
14	金武町		2			2	15	南風原町	4	0.1120	35,708
14	豊見城市	2				2	16	八重瀬町	3	0.1109	27,043
14	南城市	2				2	17	名護市	6	0.0989	60,638
14	那覇市	2				2	18	うるま市	11	0.0935	117,644
19	大宜味村	1				1	19	読谷村	3	0.0775	38,733
19	東村	1				1	20	南城市	2	0.0503	39,774
19	伊江村	1				1	21	豊見城市	2	0.0343	58,279
19	伊平屋村	1				1	22	宜野湾市	3	0.0323	92,913
19	西原町	1				1	23	西原町	1	0.0287	34,834
19	渡嘉敷村	1				1	24	那覇市	2	0.0063	317,645
25	宜野座村					0	25	宜野座村	0	0	5,391
25	恩納村					0	25	恩納村	0	0	10,247
25	嘉手納町					0	25	嘉手納町	0	0	13,772
25	北谷町					0	25	北谷町	0	0	27,590
25	沖縄市					0	25	沖縄市	0	0	131,020
25	北中城村					0	25	北中城村	0	0	16,041
25	浦添市					0	25	浦添市	0	0	111,026
25	与那原町					0	25	与那原町	0	0	17,101
25	渡名喜村					0	25	渡名喜村	0	0	442

※市町村別人口は「第54回沖縄県統計年鑑（平成23年版）」の市町村別人口、人口密度及び世帯数より

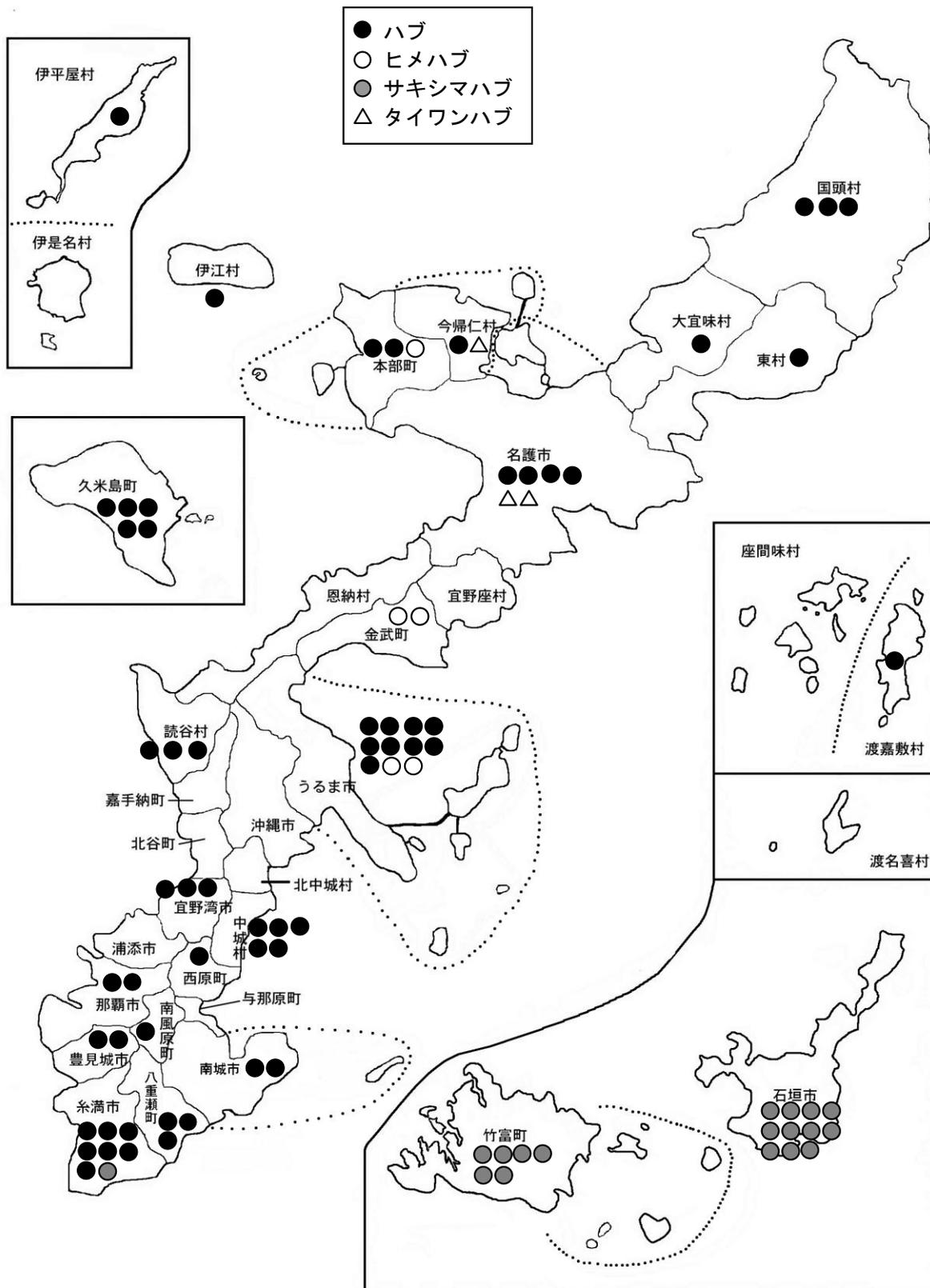


図-4 2011年 市町村別ハブ類咬症件数

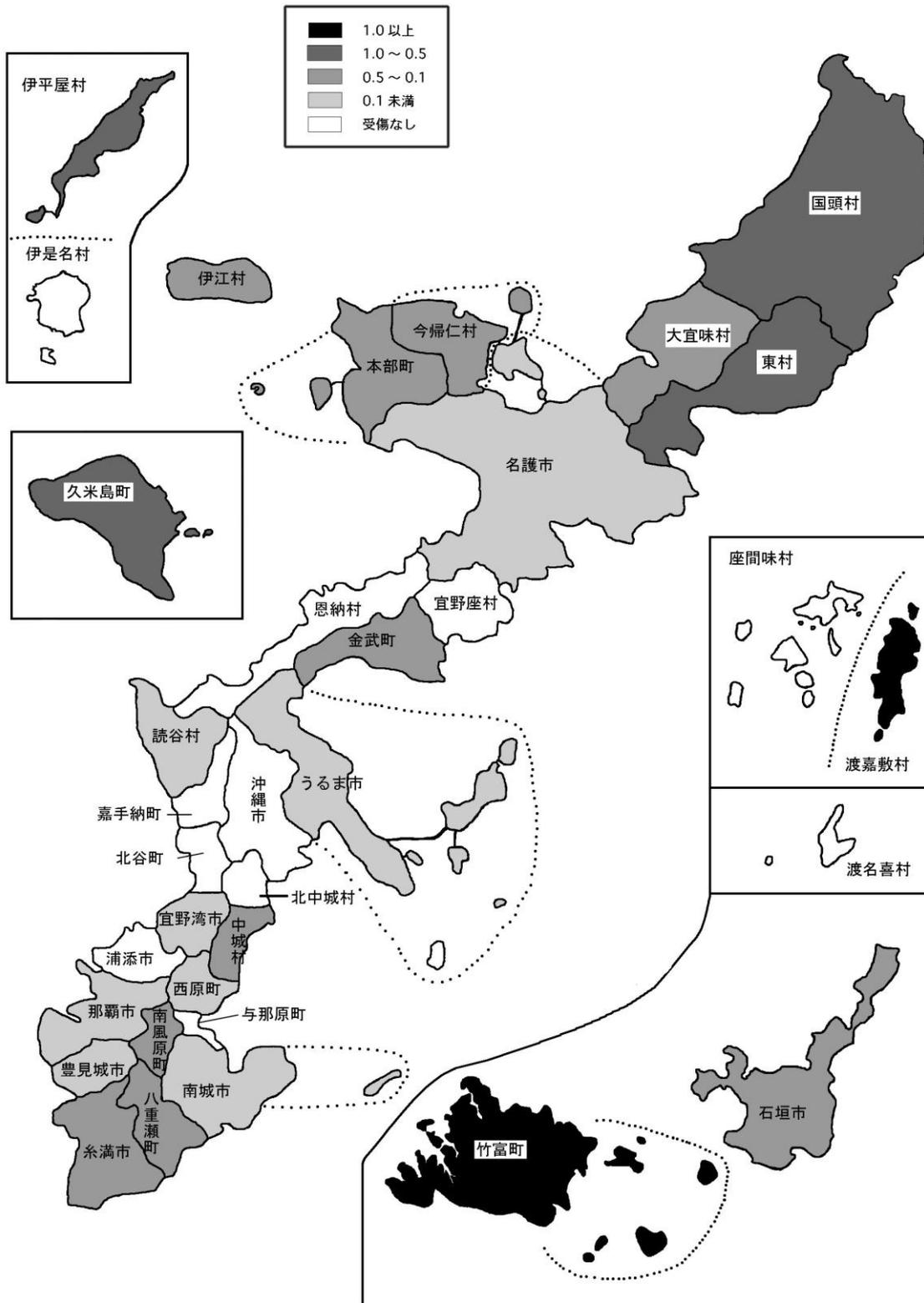


図-5 2011年 市町村別人口千人当たりハブ類受傷率

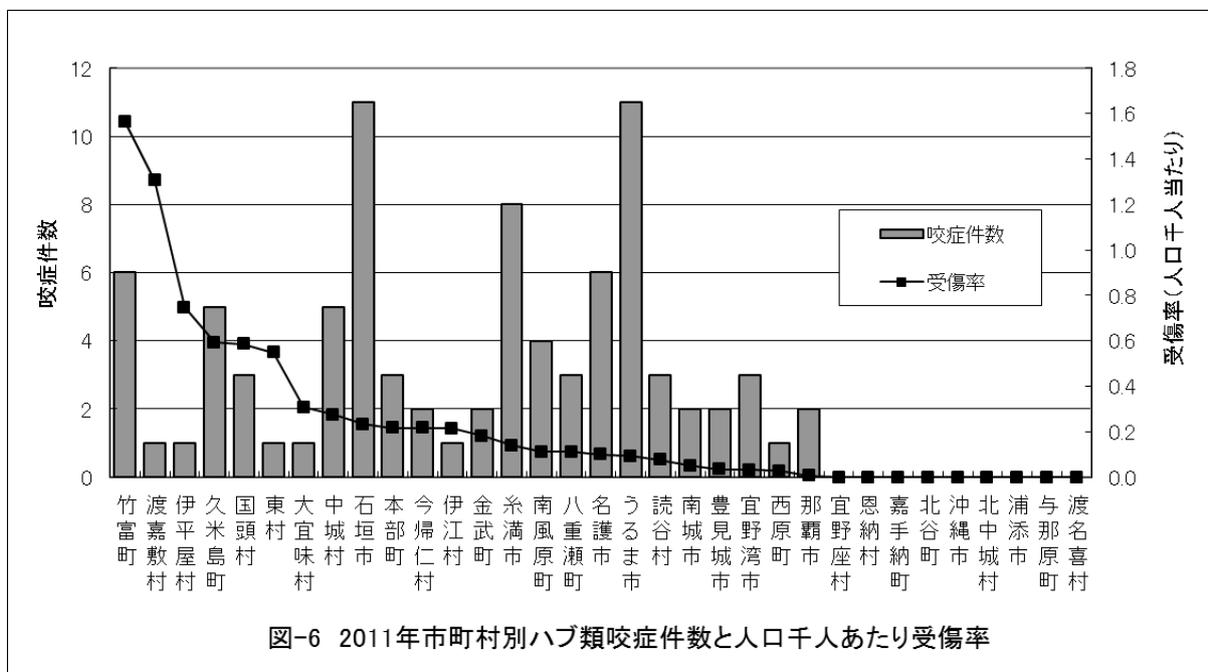


図-6 2011年市町村別ハブ類咬症件数と人口千人あたり受傷率

5. 人口 1000 人あたりの受傷率

ハブ・ヒメハブ・サキシマハブ・タイワンハブの 4 種の咬症患者の合計を市町村別に人口千人あたりの受傷率で見ると、竹富町が 1.56 と最も高い。次いで渡嘉敷 1.31、伊平屋村 0.75、久米島町と国頭村が 0.59、東村 0.55 の順になり、人口千人あたり 0.50 以上の市町村が 6 町村あった(表-5、図-5, 6)。

なお竹富町は、例年ほぼ受傷率 1 近くあるいはそれ以上ある。

ハブ類咬症者のいなかった市町村を除くと、受傷率の最も低いのは那覇市の 0.0063 である。これは人口約 16 万人に 1 人の割合になる。ついで西原町 0.029、宜野湾市 0.032 と続く。これは市街化が進んだために、住宅面積の割合が多く、山野や耕作地などの緑地面積が少なく、また人口の割に咬症患者が少ないため受傷率が低くなったと考えられる。ハブ類の生息する全市町村の平均は 0.066 で 10 万人に約 6 件か 7 件の割合である。

6. 毒蛇の種類

沖縄県では、毒蛇による咬傷時に、咬まれた人が咬みつけたヘビを目撃するのは咬症者全体のほぼ半数にすぎない。それは、ハブ類咬症のほとんどが見通しの悪い草むらや畑の中、夜間の暗がりの中で起こり、しかも咬んだヘビの多くがすぐに逃げてしまうために、確認できないからである。

さらに、ヘビを目撃した場合でも多くの人が種類を判別できない。

咬症患者がヘビの種類を確認できない場合は、咬症後の痛みと傷の状態から毒蛇に咬まれたか否かを判断することになる。被害を及ぼす毒蛇が 1 種類のみ八重山地方ではサキシマハブと判断できる。

沖縄本島とその周辺離島でヘビに咬まれ、毒蛇と判断されかつ種類を確認できない場合には、ハブの可能性が最も高い。次いでヒメハブ、アカマタ、ガラスヒバアの可能性がある。

ガラスヒバアは毒蛇であるが、形態的に毒牙が口内の奥にあるために、咬まれても毒が注入されることは稀であると考えられる。またカエルを主な餌とするので水辺に生息し、ネズミを主な餌とし、生息域が人間の生活環境と交錯するハブとは異なり、人間との接触はかなり少ない。そのためこれまで、ガラスヒバアによる記録はない。

アカマタは生息域がハブ類と共通である。攻撃的で、人間を咬むこともあるが、咬まれて種の確認ができない場合でも、傷口が U 字型の多数の歯型からなることと、患部に腫れ、出血、強い痛み の症状を伴わないことから無毒蛇と確認できる。

一方、沖縄本島では自然分布しないサキシマハブ、タイワンハブ、タイコブラの 3 種の毒蛇が過去に捕獲されており、糸満ではサキシマハブ、名護市及び恩納村山田周辺ではタイワンハブが定

着している。特にここ数年、糸満市でサキシマハブの増加が確認されており、毎年数人の咬症患者が発生するようになった。台湾ハブも05年以降は07年以外毎年咬症患者が発生した。治療に関しては、ハブの近縁種である台湾ハブによる咬症はハブの抗毒素で治療できることが判明している。(平成6年度抗毒素研究報告書より)

タイコブラは1993年頃に捕獲された以外は20年近く目撃及び捕獲がないことから、定着している可能性は少ない。

7. 月別咬症発生件数

ハブ咬症は例年秋に最も多く、次いで初夏に多い。また、冬期のサトウキビ収穫時にも若干増える。

平成23年は、ハブ咬症は10月が15件で最も多く、次いで11月10件、5月8件、9月6件、7月5件、6月4件、3,4,8月3件、2,12月2件、1月1件の順であった。ヒメハブ咬症は7,10月に2件と8月に1件だった。サキシマハブ咬症は11月に4件と最も多く、次いで3,7,8,9,12月に各2件、1,5,6,10月に1件だった。(表-6、図-7)。台湾ハブは8,10,11月に各1件発生した。

8. 保健所別咬症件数

ハブ属4種合計の保健所別届け出数は、中部福祉保健所の24件が最も多く、次いで南部福祉保健所の20件、北部福祉保健所の18件、八重山福祉保健所の17件、中央保健所の9件であった(表-7)。

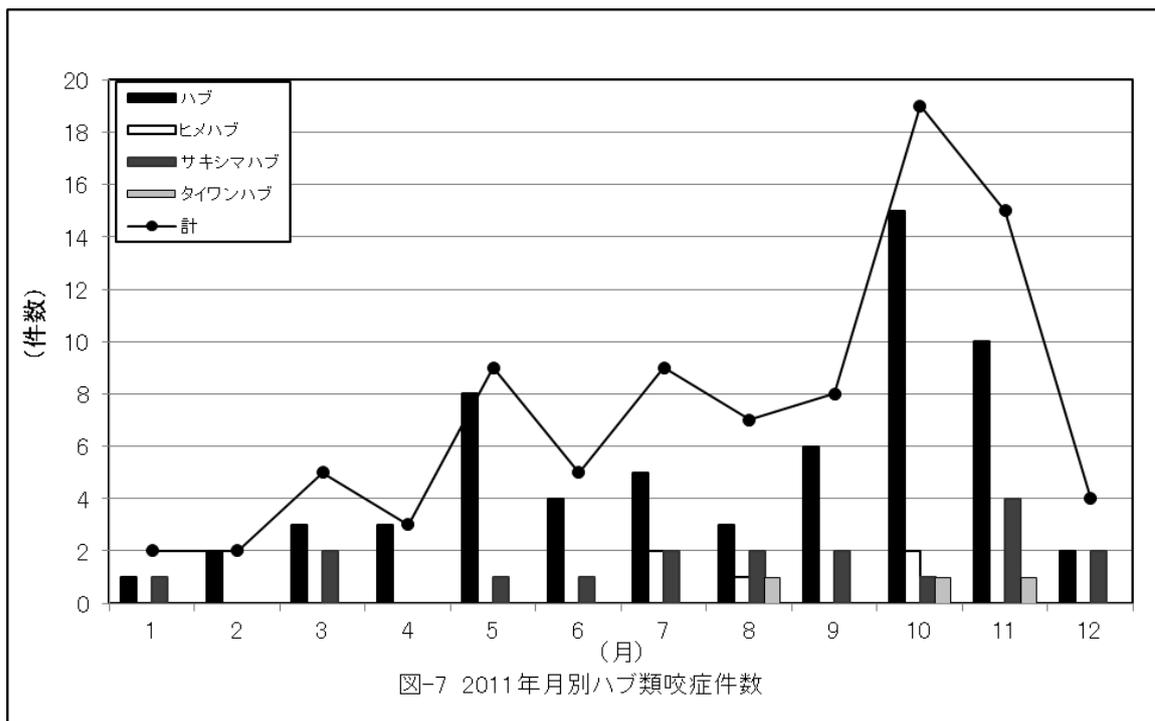


表-6 2011年月別ハブ類咬症件数

	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	計
ハブ	1	2	3	3	8	4	5	3	6	15	10	2	62
ヒメハブ							2	1		2			5
サキシマハブ	1		2		1	1	2	2	2	1	4	2	18
台湾ハブ								1		1	1		3
計	2	2	5	3	9	5	9	7	8	19	15	4	88

表-7 2011年 届出保健所別月別ハブ類咬症件数

保健所	種名\月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	計
北部	ハブ			1	1	5	1	1	1		3	1	1	15
	ヒメハブ													0
	台湾ハブ								1		1	1		3
	計	0	0	1	1	5	1	1	2	0	4	2	1	18
中部	ハブ				1	1	1	2		5	7	2	1	20
	ヒメハブ							1	1		2			4
	計	0	0	0	1	1	1	3	1	5	9	2	1	24
南部	ハブ	1	1	1	1	2	2	1		1	5	4		19
	ヒメハブ													0
	サキシマハブ											1		1
	計	1	1	1	1	2	2	1	0	1	5	5	0	20
中央	ハブ	0	1	1	0	0	0	2	2	0	0	3	0	9
八重山	サキシマハブ	1	0	2	0	1	1	2	2	2	1	3	2	17

9. 場所別の咬症発生件数

ハブ咬症の起こる場所は、例年、最も多い畑が約 40%を占め、屋敷内と家屋内とを合わせて 4分の 1、残りが道路や山林、草地で発生している(図-8、表-8)。

平成 23 年は屋敷内での咬症件数が一番多く 21 件 (34%) を占めた。次に多かったのが畑の 19 件 (31%) で特にキビ畑がその約半数の 10 件 (16%) を占めた。屋内は 5 件 (8%) で屋敷内も合わせた屋敷全体だと 42%となった。このように、ここ数年家屋内での被害が増加しており、ハブの侵入を防ぐ対策などの普及に努めることが重要である。

なお残りは道路 10 件 (16%)、山林・草地 4 件 (7%)、その他 3 件 (5%) となった。

ヒメハブ咬症は、畑 3 件 (60%)、屋敷内と山林・草地で各 1 件 (各 20%) であった。

サキシマハブ咬症は、畑が 13 件 (72%) と最も多く、次いで、道路が 3 件 (17%)、屋敷内と不明が各 1 件 (各 6%) の順だった。

台湾ハブ咬症は畑の 2 件と屋内の 1 件であった。

4 種の合計では畑が 35 件 (40%) で最も多く、次いで、家屋内と屋敷内を合わせた屋敷全体が 29 件 (33%) それ以外の合計が 24 件 (27%) で

あった。畑、屋敷全体での咬症件数共に前年より増加した。屋敷全体という人の生活圏における咬症の相対的な増加傾向が続いており、より一層の対策が必要である。

10. 時刻別咬症件数

ハブ類が夜行性であるにもかかわらず、ハブ類咬症は日中に多い。これは、咬症者の約 40%が畑で咬まれており、畑での咬症は農業従事者の労働時間である日中に起こることが多いためである(表-9, 10、図-8)。

草地と山林での咬症も人間の活動時間である日中に多い。

道路での咬症は逆に暗い夜間が多い。夜行性であるハブ類は、道路のようなオープンな場所に日中出現するのはきわめて稀で、ほとんどは、夜間の暗い路上を歩行中、ハブ類に気付かずに咬まれたものである。

屋敷内および家屋内での咬症は昼夜の差はみられない。これは、夜間に侵入してきたハブ類に侵入直後に咬まれる場合と、侵入後、物陰に隠れていたハブ類に日中もしくは夜間に咬まれるためと推測される。

表-8 2011年 場所別咬症件数

場所	ハブ	ヒメ ハブ	サシマ ハブ	タイワン ハブ	計
屋内	5			1	6
屋敷内	21	1	1		23
畑	19	3	13		35
道路	10		3	2	15
山林草地	4	1			5
その他屋敷外	3				3
不明			1		1
計	62	5	18	3	88

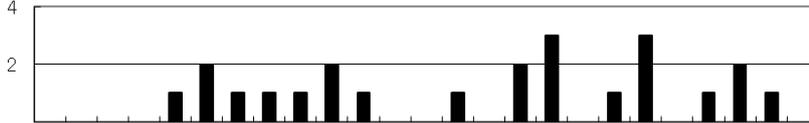
表-9 2011年 動機別咬症件数

動機	ハブ	ヒメ ハブ	サシマ ハブ	タイワン ハブ	計
就寝中	1				1
用便中	2				2
室内の他の動作	4			1	5
通行中	13		1	1	15
キビ刈り中	4		1		5
農作業中	9	1	7		17
草刈り中	11	3	5		19
ハブ扱い中	6	1			7
屋外の他の動作	12		3	1	16
不明			1		1
計	62	5	18	3	88

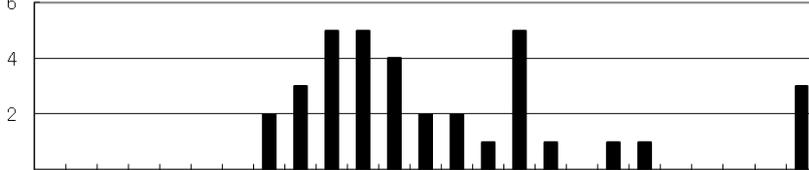
屋内



屋敷内



畑



道路



山林・草地



その他



場所不明



合計

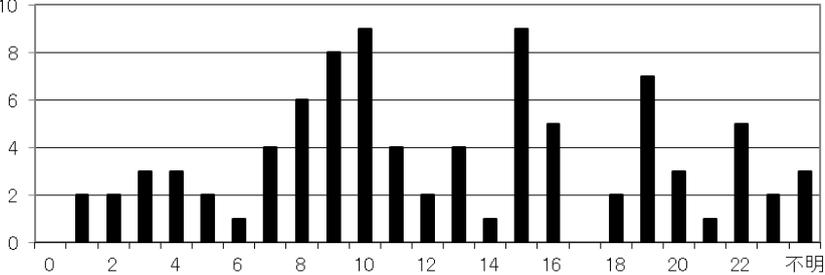


図-8 2011年 時刻別場所別ハブ類咬症件数 (4種計)

表-10 2011年 場所及び時刻別ハブ類咬症件数（四種計）

場所\時間	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	不明	計
屋内			1	1	1					1	1										1					6
屋敷					1	2	1	1	1	2	1			1		2	3		1	3		1	2	1		23
畑								2	3	5	5	4	2	2	1	5	1		1	1					3	35
道路		2		1					1		1			1		1					2	2		3	1	15
山林・草地			1	1							1					1					1					5
その他					1				2																	3
不明																	1									1
計	0	2	2	3	3	2	1	4	6	8	9	4	2	4	1	9	5	0	2	7	3	1	5	2	3	88

11. 咬症部位

ハブの場合、手指24件(38%)、下腿12件(19%)、足9件(14%)、手7件(11%)、足指4件(6%)、前腕・大腿各3件(各5%)、上腕・頭部各1件(各2%)であった(表-11、図-9)。

ヒメハブは手指3件(60%)、手2件(40%)であった。

サキシマハブは、手指11件(61%)、手5件(28%)、足・大腿各1件(各6%)であった。

タイワンハブは足指2件と下腿1件である。

なお、一人の患者が複数箇所咬まれている場合があるため、咬症件数とは数字が異なる場合がある。

沖縄県での毒ヘビ咬症は、手足の先端に近い部分を咬まれることが多い。特にサキシマハブとヒメハブは体長が小さいために攻撃距離が短く、咬症部位は身体の末端に限られ、頭部や胴体などをかまれることはほとんどない。

12. 年代別、性別発生件数

4種類の合計で見ると、ハブ類咬症の多い年代は50代から70代にかけてである(図-10、表-12)。

咬症患者の性比は、男性69名、女性19名と約7:2で男性が多い。これは咬症者数の最も多い畑での作業者が高齢の男性に多いことに起因すると考えられる。

平成23年の咬症患者の最小年齢は5歳の女子

で、6月26日の16時頃、売店で休憩中、右下腿を咬まれた。出血があり、すぐに病院へ搬送された。はぶ抗毒素血清は使用されていない。経過は良好で完全治癒した。

最高齢は91歳の男性で、6月21日の20時30分頃、道路で作業をしていたところ右前腕を咬まれた。疼痛・腫脹・出血があり、病院へ搬送されはぶ抗毒素血清を12,000単位(2バイアル)投与された。経過は良好で完全治癒した。

13. まとめ

沖縄県における平成23年(2011年)の毒蛇咬症患者はハブ咬症62件、ヒメハブ咬症5件、サキシマハブ咬症18件、タイワンハブ咬症3件の計88件であった。これはここ10年では3番目に少ない被害件数である。咬症件数は10年前と比較すると減少しているが、屋敷全体という人の生活圏における咬症割合は増加傾向が続いており、日頃の対策が重要である。

また、ここ数年間、糸満市で起こっているサキシマハブによる咬症及び2005年から起こっているタイワンハブによる咬症という外来種による咬症が目立ってきている。その対策を講じなければならない。

表-11 2011年 部位別ハブ類咬症件数

部位\種		ハブ	ヒメ	サキマ	台湾	計
		ハブ	ハブ	ハブ	ハブ	
手	指	24	3	11		38
	手	7	2	5		14
	前腕	3				3
	上腕	1				1
足	指	4			2	6
	足	9		1		10
	下腿	12			1	13
	大腿	3		1		4
頭 部		1				1
軀 幹						0
計		64	5	18	3	90

※一人の患者が複数箇所咬まれている場合があるため、咬症件数とは数字が異なる。

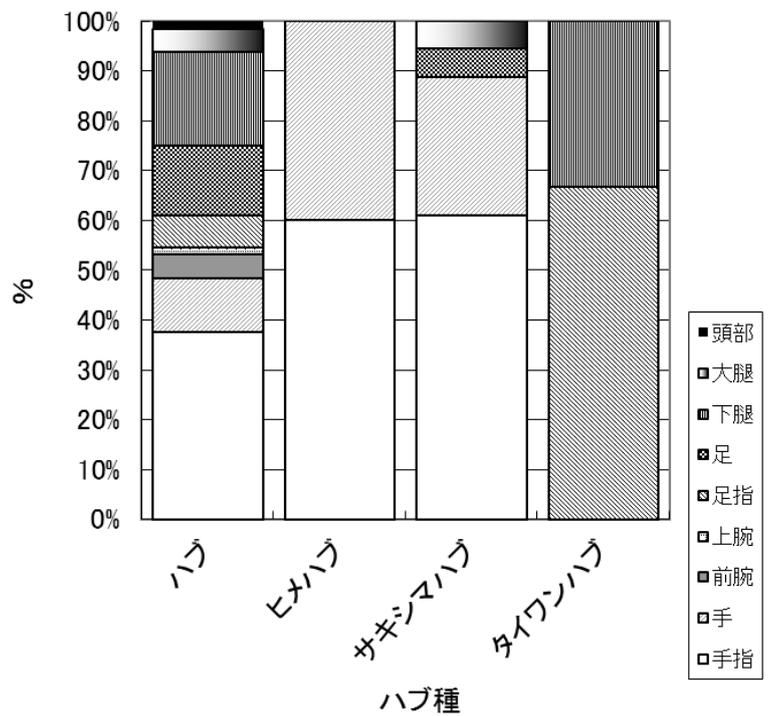


図-9 2011年部位別ハブ類咬症発生率

表-12 2011年 年代別ハブ類咬症件数

種類	年代	0	10	20	30	40	50	60	70	80	90	計
ハブ	男		3	1	5	4	12	13	9	1	1	49
	女		2			1	2	3	3	1	1	13
	計		2	3	1	5	5	14	16	12	2	2
ヒメハブ	男				1		1		1			3
	女								1	1		2
	計		0	0	0	1	0	1	1	2	0	0
サキマハブ	男			2	2	3	4	1	2	1		15
	女							1	1	1		3
	計		0	0	2	2	3	4	2	3	2	0
台湾ハブ	男				1	1						2
	女								1			1
	計		0	0	0	0	1	1	0	1	0	0
4種計	男		3	3	8	8	18	14	12	2	1	69
	女		2			1	2	5	6	2	1	19
	計		2	3	3	8	9	20	19	18	4	2

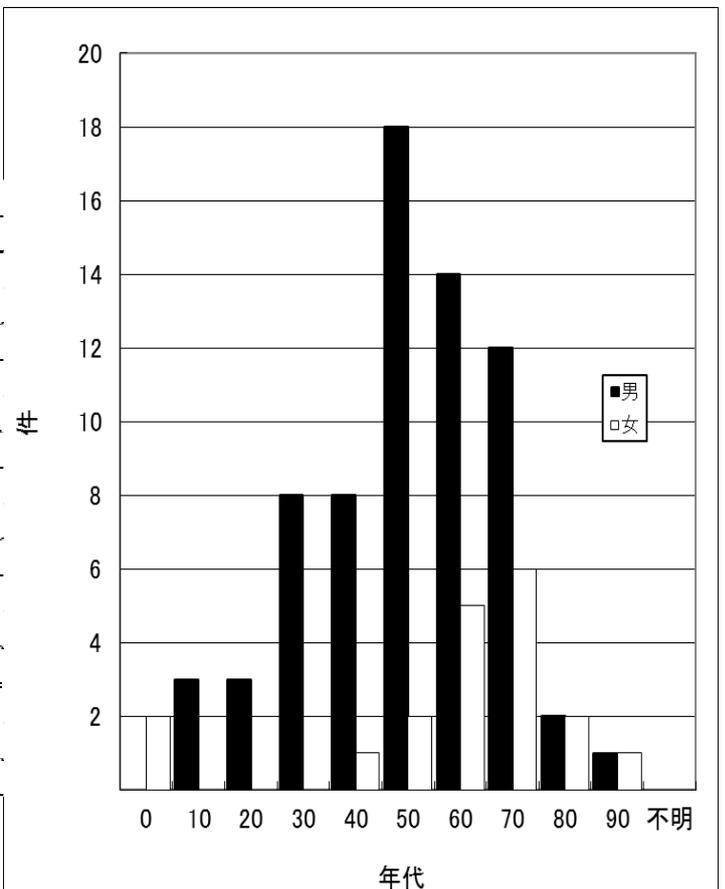
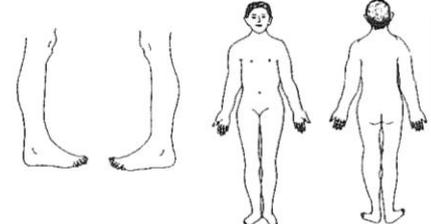


図-10 2011年年代別男女別咬症件数

図-11 ハブ咬症患者調査票

ハブ咬症患者調査票		連絡先：沖縄県 衛生環境研究所ハブ研究棟 電話：098-946-6710 FAX：098-946-6711
		No. _____
		記入者名 _____
I 病院名 _____	転院名 _____	
II 患者名 _____ 年齢 _____ 才	1. 男 2. 女 生年月日 (明・大・昭) _____ 年 月 日生	
住所 _____ 市・町・村 _____	番地 _____	自宅電話番号 (_____) _____
職業 _____	職場電話番号 (_____) _____	
III 受傷日 _____ 年 月 日	午前・午後 _____ 時 _____ 分	
IV 受傷場所 _____ 市・町・村 _____ 番地 _____	V 受傷動機	
0. 不明	0. 不明	
屋 内 1. 居間・寝室・その他 (_____)	1. 就寝中 2. 室内におけるその他の活動 3. 用便中	
2. 台所 3. 便所・風呂	4. 通行中	
屋敷内 4. 庭 4. その他 (畜舎・便所・車庫・鶏小屋)	5. キビ刈中 6. 農作業中 7. 草刈中	
田 畑 5. キビ畑 6. パイン畑 13. 水田	8. ハブ取扱中・採取中	
7. その他の畑 (イモ・野菜・不明)	9. その他 (_____) _____	
道 路 8. 農道 9. その他の道路 (山道・部落内道路・不明)	VI 蛇の種類	
原 野 10. 原野・草地 11. 山・森林	ハブ・ヒメハブ・サキシマハブ	
12. その他 (川・沼・池・海岸・墓地)	アカマタ・わからない	
VII 受傷部位		
0. 不明 21. 頭部 25. 軀幹		
上 左 1. 左第__指 3. 左手 5. 左前腕 7. 左上腕		
肢 右 2. 右第__指 4. 右手 6. 右前腕 8. 右上腕		
下 左 11. 左足第__指 13. 左足 15. 左下腿 17. 左大腿		
肢 右 12. 右足第__指 14. 右足 16. 右下腿 18. 右大腿		
VIII 応急処置	X 局所症状	
処置方法	1. 疼痛 (+, -), 腫張 (+, -), 出血 (+, -)	
A 1. 緊縛せず 2. 緊縛した 0. 不明	2. 牙痕数 (_____) _____	
B 1. 吸引せず 2. 吸引した 0. 不明	3. 今回の受傷状況 (被咬回数 1回 2回 3回)	
C 1. 切開せず 2. 切開した 0. 不明	4. これまでに何回かまれたことがあるか (過去 ____ 回)	
IX 受傷より血清治療までの時間	XI 血清について	
0. 不明 1. 30分以内 2. 1時間以内	血清量 _____ ml	
3. 2時間以内 4. 4時間以内 5. 4時間以上	注射法 0. 不明 1. 静脈注射 2. 局所注射 (受傷部)	
6. 血清治療せず	3. その他 (受傷部以外の筋注など)	
	4. 注射せず	
XII 治療期間		
治療日数 0. 不明 1. 2~3日 2. 1週間 3. 2週間		
4. 1ヶ月 5. 2~3ヶ月 6. 3ヶ月以上		
入院日数 _____ 日		
XIII 予 後		
0. 不明 1. 完全治癒・リハビリをした 2. 完全治癒・リハビリをしない 5. 瘢痕形成		
7. 機能障害 (含切断) リハビリをした 8. 機能障害 (含切断) リハビリをしない		
10. 死亡 (____ 年 ____ 月 ____ 日 ____ 時)		